

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	
	性・年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
1	男 10歳 未満	予防接種 (なし)	0.5mL 1回	ネフローゼ症候群 既往歴で腎障害はない。 昨年、本剤を接種した際、発熱と上腕伸側（接種部）の腫脹がみられた。	
				接種日	A病院で、本剤接種。
				接種8時間後	左腋窩腫大（6cm大）、接種部位も肘まで腫脹したためA病院再診。 左腋窩リンパ節腫脹、左上腕伸側の腫脹（接種部）が発現。
				接種1日後	38℃台発熱あり。左腋窩は2.5cm大まで腫大は軽快していた。 A病院で本剤による副反応が疑われ、ケトチフェンマル酸塩、セフジニル、ベタメタゾン吉草酸エステル・ゲンタマイシン硫酸塩軟膏、耐性乳酸菌製剤処方。
				接種3日後	全身のむくみがありA病院再診。体重増加（16.0→16.5kg）。 全身浮腫あり。尿蛋白21000mg/dL（4+）、尿潜血（±）、沈渣異常なし。 尿比重 1.030以上で、血清アルブミン 1.0g/dL、総コレステロール 315mg/dL、BUN 13mg/dL、血清クレアチニン0.2mg/dLでネフローゼ症候群としてB病院に紹介入院となった。 ケトチフェンマル酸塩、セフジニル、ベタメタゾン吉草酸エステル・ゲンタマイシン硫酸塩軟膏、耐性乳酸菌製剤投与終了。
				接種5日後	浮腫、蛋白尿改善ないため注射用プレドニゾロンコハク酸エステルナトリウム2mg/kg/日静注を開始した。
				接種9日後	尿蛋白消失し、浮腫改善傾向。
				接種12日後	浮腫消失し、体重は病前に回復。
				接種17日後	退院。外来でプレドニゾロン 2mg/kg/日内服は継続。
				接種21日後	ネフローゼ症候群、左腋窩リンパ節腫脹、左上腕伸側の腫脹（接種部）、発熱は回復。

臨床検査値

	接種3日前	接種5日後	接種9日後
尿蛋白 (mg/dL)	21000	5260	—
尿潜血	(±)	2+	(—)
尿沈渣赤血球	1-3	—	<1
尿沈渣白血球	7-10	—	<1
尿沈渣円柱	(—)	—	—
白血球数 (/mm ³)	8500	13000	6710
好酸球 (%)	15	0.6	0
血清アルブミン (g/dL)	1.0	1.5	2.3
血清Na値 (mEq/L)	133	136	133
血清K値 (mEq/L)	4.3	5.4	4.2
血清Cl値 (mEq/L)	107	107	104
総コレステロール (mg/dL)	315	—	516
血清クレアチニン (mg/dL)	0.2	0.32	0.17
BUN (mg/dL)	13	20.3	11.5

併用薬：なし